

「第1回 鴨川沿岸 海岸づくり会議 議事録（概要版）」

日時：平成15年11月16日（日） 午前13時30分～16時30分

場所：鴨川市役所 7F会議室

次第：

1. 開会
2. 挨拶
3. 参加者紹介
4. 鴨川沿岸の変遷について
5. 意見交換
6. その他
7. 閉会

<議事録>

2. 挨拶（鴨川市長）

鴨川市は、漁業、農業、観光がうまくバランスのとれた町です。今後は、通年滞在型のリゾート地としての町づくりを目指して行きたいと考えています。その中で、東条海岸は、漁業、観光の両面で中核であり、また市民の憩いの場です。海岸は、鴨川市にとってなくてはならない存在です。「鴨川沿岸 海岸づくり会議」は、参加した人々及び、より多くの人々の知恵をかり、皆さんの意見を反映した海岸づくりをしていくために開催しました。今後、この会議を幾度か開催していき、よりよい海岸づくりに役立てていきたいと考えます。

3. 参加者紹介、会議のルール説明など（事務局：鴨川市担当）

4. 鴨川沿岸の変遷について

（宇多氏：別紙pptにて説明）

現在、東条海岸の現状を説明すると

- ・ 東条海岸の中央部で越波による災害が起きた。
- ・ シーワールド、シーワールドホテルなどに、越波による海水が飛び込んだ。
- ・ 普段、皆さんが散歩道として使用していた管理用通路に、越波による大穴が空いて通れないようになった。
- ・ 護岸が、壊れてしまったため、砂浜に下りることができなくなった。
- ・ 鴨川フィッシャリーナ側に、砂が集まって堆積している。

このような現象や、越波、海岸浸食の原因は、今後、海岸の専門家が解明していきたいと思っています。また、今後の鴨川沿岸のためにどのようにしたらよいかを皆さんで考えてもらいたいと思います。今後というのは、「来年よくなれば」ということではありません。数

十年後という長いスパンで鴨川沿岸のことを考えていかなければならないと考えます。

対策は、防護だけを考えればよいではありません。防護と利用、環境を同等に考えなければなりません。ただ、その3つを同等に考えると、かなり苦しい思いをすすると思います。しかし、苦しいからといって議論をしないというわけにはいかないのです。

この会議は、皆さんでそのこのところを考えていく会議です。人それぞれ（サーファー、漁業者、観光業者、海岸を利用している市民の方々）東条海岸に対する考え方は違いますし、それぞれが海岸を大事に思っていると思います。ただ、その考え方の違いにより、様々な問題が発生すると思います。そこは、トレードオフする必要があると思います。

そのようにして、望ましい海岸の姿を皆さんで考えていくのがこの会議の主旨です。「いつまでに予算を執行する為に行う会議」ではありません。よって、皆さんが、きちんと納得できるものにしなければならないと思います。

今回の会議は、50年後の鴨川の海をどうしようかということをお話し合う、第1回目の会議なのです。

午前中に、皆さんと一緒に現場視察を行いました。これは、皆さんに現場を見て頂いて、皆さんの頭にイメージがわくようにしたかったからです。

皆さんに、配布しました資料に、鴨川沿岸の空中写真があります。これをみると、鴨川沿岸は、東の天津小湊町側に岩礁地帯があります。西には、鴨川漁港があります。その間は、ずっと砂浜になっています。この砂浜は、非常に長い年月をかけて、加茂川がつくったものであり、昨日今日できたものではありません。

皆さんは、ポケットに物を入れるとそう簡単に物は外には出ないですね。それと同じで、鴨川沿岸は、ポケットビーチと呼ばれ、この沿岸の砂は、人為的に外に運ばない限り砂は減りません。そのことを、まず十分理解して頂きたい。

空撮の中に白い線が海域に入っていると思いますが、これは管理している区域を示しています。鴨川漁港を囲っている区域は、漁港区域といいこの中の、工事は全て南部漁港事務所が管理しています。前原・横渚海岸、東条海岸は、鴨川土木事務所が管理しています。

前原・横渚海岸にある離岸堤は、鴨川土木事務所が管理して設置しました。なぜ、設置したかということ、前原海岸で越波の被害がひどくなったからです。離岸堤を設置したことや、その後の、鴨川フィッシャリーナの建設、漁港の防波堤の延長によって、前原・横渚海岸は、静穏になったのでそれにより、砂が堆積したのです。では、堆積した砂は、どこから来たのでしょうか？先ほども、いいましたが鴨川沿岸全体の砂の量は変わりませんので、前原海岸にたまった砂は、他の場所から来たことになります。それは、前原海岸の隣の東条海岸、つまり鴨川シーワールド前の砂が移動してきているのです。

資料の、「空中写真で見る鴨川沿岸の変遷」を見てください。

1947年当時、鴨川沿岸の中央部には砂浜幅が十分ありました。風の強い日は、飛砂がひどくて被害を受けていただろうと思います。鴨川漁港側の海をみると、波がきれいに回折して入ってきている状態が分かります。これが、終戦直後、サーフィンのポイントとして有名だった赤堤防のポイントです。今、赤堤防の上には鴨川フィッシャリーナができています。

1967年では、海岸中央部の保安林の中を突っ切って道路が通っているのが分かります。前原・横渚海岸には、護岸もできあがっています。

1983年では、海岸中央部にシーワールドが建設されています。鴨川漁港の防波堤が伸びているのも分かります。前原・横渚海岸の砂浜は、1967年と比べると、砂浜幅が減っています。よって、砂浜幅が減少して越波がひどくなっていたことが考えられます。

1995年では、前原・横渚海岸に離岸堤が設置されています。離岸堤ができたことによりその背後に砂が堆積しています。また、鴨川漁港の防波堤がさらに伸ばされています。先ほども述べましたが、前原海岸にたまった砂は、鴨川シーワールドの前の砂浜から移動してきています。もともと、シーワールドは海側に建設されたため、シーワールドの前の砂浜幅は、他よりも狭いものでしたが、前原海岸側に砂が移動したためさらに、砂浜幅が狭くなってしまったことが分かります。

1997年では、鴨川フィッシャリーナの建設が進んでいます。一番下が今年の空中写真です。

休憩

(清野氏)

私は、千葉県の(海岸保全計画)海岸をどのようにつくっていくかという会議の委員をしていました。その時、住民の皆さんにいろいろな情報を頂き大変役に立ちました。

これから、鴨川の過去の写真を紹介しますが、過去の写真や、その当時の話があると、それ自体がすごい情報であり、これからの事業に非常に役に立ちます。そのような過去の情報が無いと、現在の波向きや、波の情報で海岸の施設は設計されてしまいます。そこで、海岸のことを考えるとき、もっと過去の写真が必要になります。そこで皆さんに、そのような写真があれば提供して頂きたいと思います。

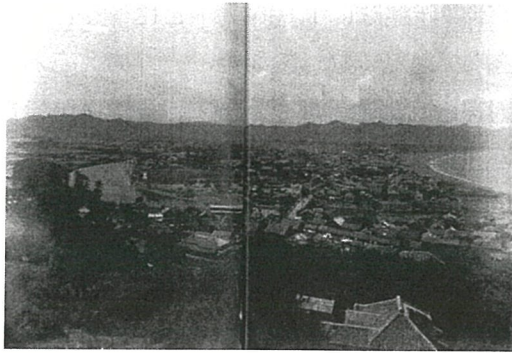
[昔の鴨川沿岸]

写真



明治23年の写真で、河口の中に港があった時代です。このあと、外に港が造られました。

写真



昭和20年頃の写真です。橋が建設されていたり家が新しくなっています。

この頃、砂浜はどうだったのか。どんな植物が砂浜に生えていたのか、浜小屋はあったのか、そのような情報（話）があったら貴重なので教えてほしいですね。

写真



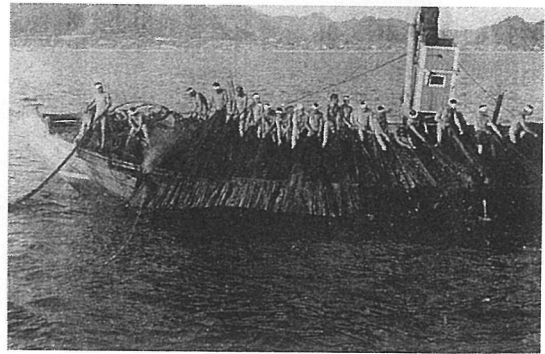
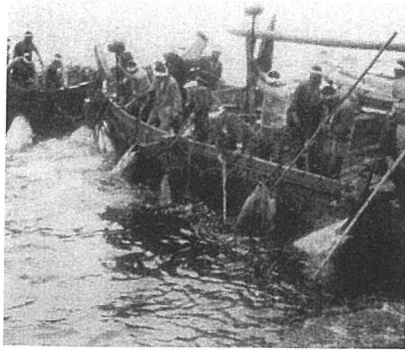
昭和初期の風景です。このような船で、どのような魚を獲っていたのか知りたいですね。

写真



たくさんのブリが水揚げされている写真です。現在でも、鴨川漁港は千葉県の中でも活気のあるほうだと思いますが、昔はもっと魚が獲れて活気があったようですね。

写真



漁をしている写真ですが、背後に陸地が写っているのので、どのあたりで漁をしていたのか、当時のことを知る人の証言があればわかるのではないのでしょうか。

写真



鴨川化成とは、どのようなものだったのか知りたいですね。前原海岸は、家族の働く場所だったみたいですね。

写真



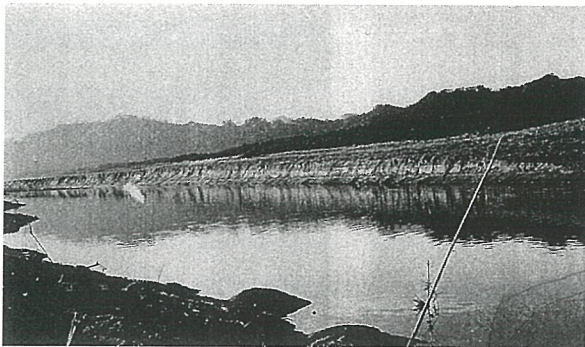
昭和35年頃ですが、休憩所が砂浜のどこあたりにあったのか、どのような様式で造られていたのか、シャワーは洗剤を使えたのかなど知りたいですね。また、遠浅の砂浜だったことが分かります。

写真



どこが、どうやって発展してきたのかが分かる写真ですね。集落のある場所などでそこがどのような地盤なのかも分かると思います。

写真



河口は、昔は釣りをしながら、絵を描くなどハイカラな場所だったところです。

写真

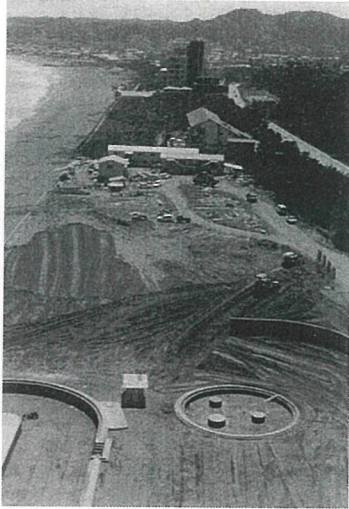


現在の松林（保安林）はうっそうと茂っていて、歩くことができませんが、昔は普通に散歩できたようですね。

砂浜で踊っている踊りは、どのようなものだったのか知りたいですね。

このように、1枚の写真でいろいろなことが分かります。1枚の写真と当時を知る人の証言がすごい情報になると思います。

写真



シーワールド建設の写真ですね。

写真



松林が植林されている最中の写真ですね。

[現在の鴨川沿岸]

写真



現在の砂浜に生えている植物はなにがあるのかというのは重要ですね。砂浜にもともと自生していたり、緑化のため植えられたりいろいろありますが。バブル時代の頃は、砂浜に生えている植物は雑草とみなされて除去されプロムナード化する時期もありましたが・・・。

写真



漁港には、活気がありますね。

(参加者)

写真

当時、現在の鴨川フィッシャリーナの周辺（マンションの建っている一角）に魚の工場があった。この写真は、その前で撮られたものではないか。カジメは、鴨川化成のアルギン酸や、手術する時の糸として利用されていた。昔、親に連れられて、カジメを獲りにいった覚えがある。



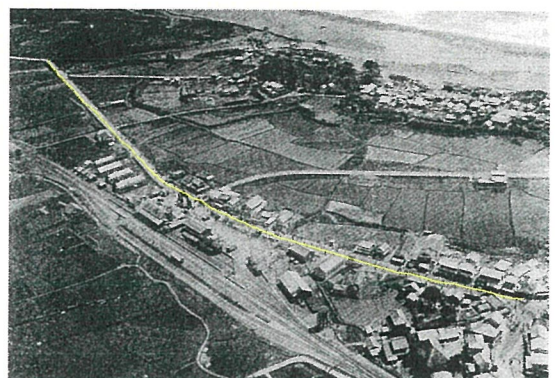
写真

当時、前原海岸には、網元が3軒あった。水産加工場は、前原海岸に多く建っていた。



写真

前原海岸沿いに通っていた道が、旧街道の長狭街道である。鴨川駅前を通っている道（黄色線）は、鴨川駅にアクセスするためにつくられた新しい道だった。



写真

松林は、50年前に植林されたもの
だと思う。
浜には、ハマボウフとかがたくさん
植生していた。その頃は、ハマボウフ
が食べられるとは思わなかったが・



ハマボウフ

写真

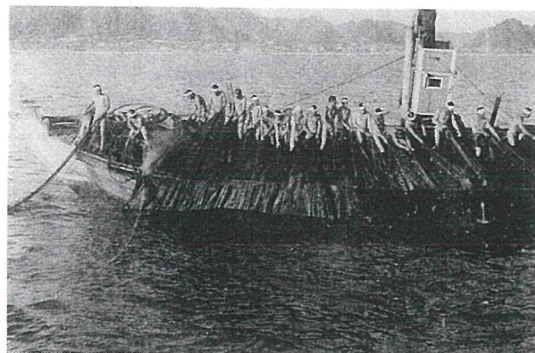
当時、市場は加茂川の中にあった。
まき網漁は浅い所で行っていたが、生活排水
等の影響で海が汚れて、魚の餌になっていた
プランクトンがいなくなったためか、魚が獲
れなくなり、水深10m ぐらいの箇所
で行うようになった。現在は、30m 以深の深い
箇所で行っている。
刺し網は、東条海岸の北側（端部）で行な
っている。



東条海岸の砂は、春から夏にかけて砂は北側に移動する。秋から冬はその逆で、南側に移動する。それによって今は、鴨川フィッシャリーナ側に砂がたまってしまっている。

写真

この写真は、終戦後（昭和30年ぐらい）の
イワシ漁の写真だと思う。水深10m ぐらいで
漁をしていた。
漁で使用した網は、前原海岸で干していた。
網は、綿で作られていたので干さないと腐って
しまった。



東条海岸の北側の端部は、天津の人々が漁を
していた。天津の岩礁地帯では、まき網漁を
行っていた。東条海岸の中央部は、ほとんど使われていなかった。

とった魚は、干しかにしていた。また、それを稲の肥料にしていた。獲った魚を干しかにしていたのは、ニボシにしても粉々になってしまっていたから。当時は、冷蔵庫のような保冷機器もまったくなかった時代だった。

写真

私が子供の頃は、冷蔵庫も氷もなかったの
ので、獲れた魚は、写真のようにカ
ゴに入れていた。



カゴ

当時は、浜や自然の崖の下に船を泊めていた。
その昔は、港は河口にあったが、魚が浅い所
で獲れなくなり、沖に漁場が移ることによって
船が大きくなった。船が大きくなると、川に
入れないので、漁港は海側になり、さらに船が
大きくなると、漁港も大きくなっていった。
この当時は、弁天島の方はまだ何もなかった。
弁天島は、海難防止と大漁祈願の神が祀ってある。



(清野氏)

当時の話をいろいろと聞いて、鴨川の人々が海岸のことをどう思っていたかよく分かりま
した。千葉は竹がよく取れるので、魚をいれる容器がカゴだったのかもしれない。

今、日本中の海岸で、地元の人々の話を聞くということが難しくなっているのが現状です。
昔のことを忘れないためにも、今聞かなければならないと考えています。

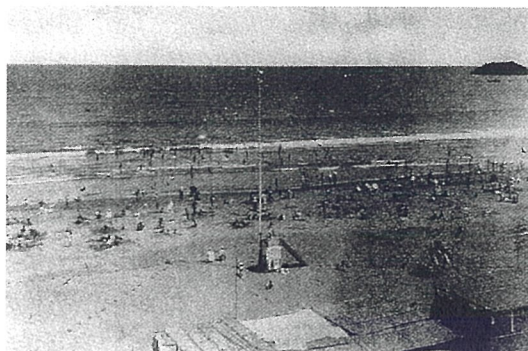
基本的には、皆さんが当時のことを思い出す手助けや、その整理をするお手伝いをしてい
きたいと思っています。

昔の写真を見ると、漁をしている人に若い人がずいぶん多かった。また、港はかなり活気
があったことが分かります。

(宇多氏)

写真

当時の海岸に目を向けてみると。写真では波
が綺麗に直角に入ってきています。また、沖で
砕波しているのも分かります。このような海岸
は遠浅で、勾配も緩い。砂は、横には動かない
ことが分かります。



写真

この写真は、日本の海岸のどこにでもあった風景だと思います。
波の入り方が、とてもゆっくりで、海底の勾配が緩かったことが分かります。
このような海岸を取り戻すのは、非常に難しく、現状では無理です。



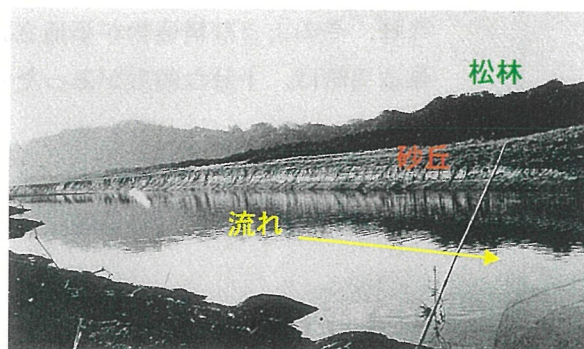
(清野氏)

なぜ過去の写真や、話が貴重で大切かという、現在の物事は、必ず過去からの変遷をへて現在に至っています。よって、現在の自然共生型の海づくりというのは、少なからず過去に戻すという作業なので、先ほどの過去の話などは、その作業の貴重な基礎資料になるのです。よって、どんどん当時の話をだしてほしいと思います。

(参加者)

写真

待崎川の河口は、現在の位置から北側（鴨川グランドホテルの方まで）の方に蛇行して海に出ていた。



写真

踊っているのは、盆踊りで観光のために踊っていたのだと思う。
奥に見えるのは、地曳き網で使用する船である。
地曳き網漁は、前原海岸から東条海岸まで漁を行っていた。
一番遠いところで、今の鴨川ロイヤルホテルがあるところまで、漁をしに行っていた。
地曳き網漁は、主に夏場に行っていた。
前原海岸には、大きな網元が3つあった。



(宇多氏)

エルニーニョの影響により、日本に幾つもの台風が上陸した1997年の9月に、東条海岸で災害が起きました。

写真は、その時の写真ですが、越波した波が鴨川シーワールド内まで侵入してきている状況です。これでは、鴨川シーワールドもたまったものじゃないですよ。本当にどうにかしてほしいといたくなると思います。



写真は、越波により吸出しを受けて陥没してしまった、管理用通路です。



なぜ、護岸は壊れてしまったのか？

被災した、緩傾斜護岸は強力な波力にはもろい構造でした。

なぜ、そのような構造物が築造されていたのか？

築造当時は、十分な前浜があったのでそのような構造物でも大丈夫だったのです。

(参加者)

前原海岸に設置されている離岸堤は、撤去できるのか？

(宇多氏)

前原海岸に設置してある離岸堤は、防災のために国の補助金をうけて設置されたものです。よって、撤去してほしいからといってすぐに撤去できるものではありません。

国に対して、砂浜が十分あるので撤去しても防災面で問題ないという説明が十分できたならば撤去も可能です。ただ、国の補助金で設置したものですので、財務省に返金しなければならないこともあります。

実は、撤去はできないが転進は可能です。ただ、転進にしてもそのコストはかかりますし、国の補助で行っているので、処置は条件をきちんと整理して行う必要があります。

撤去する工事は、海上施工で行えるので技術的には問題はありません。

国土交通省では、景観を考慮して消波ブロックを撤去している事例が9つほどあります。

(参加者)

自然再生法が今年から施行されたが、その法律を使えば撤去も可能なのではないか。

(宇多氏)

自然再生法が施行されたからといって、財務省担当者が、すぐ首を縦に振るかといえば疑問がある。法律は、前にできた法律が優先されるので、バランスよく行う必要がある。

(清野氏)

自然再生法は、まず「利害関係のある人々が出席する会議を必ず開催すること（協議会）→協議会の中で立案していく→協議会と行政との間で調整作業を行う」というものです。

縦割り行政で事業を行うよりも、地域の人々がちゃんと立案して、事業をやり直していくというものなので、その準備ができていない地域でしか行うことができないし、その全体のビジョンがとても大切です。

(参加者)

東条海岸の北側の端部の岩場がずっとでていて、砂が堆積して埋もれることがなくなった。海藻もまったくついていない。端部でも、砂浜が減少している現われだと思う。

待崎川の上流にダムができたのも関係しているのではないだろうか？ダムができる前は、出水時に土砂がかなり出ていたと思う。

漁港では、防波堤を延長するという計画があるようだが、防波堤を延長するともっと砂を漁港側にひっばってしまうのではないか？

(宇多氏)

今の段階で、いきなり漁港はけしからんとはいえません。よって、今後どのような影響がでるか解析を行い、その見解を徐々にだしていきたいと思っています。

(参加者)

いつも波をみていて分かるのだけど、沖の航路防波堤が海岸に悪影響を及ぼしていると思う。物事は、自然を前提に考えていかないといけないと思います。今は、人を中心に考えすぎている。

(宇多氏)

確かに、波向きも海岸の状態も、昔とかなり変わってしまっていると思う。よって、もとに戻すことが非常に難しい海岸だという事を、皆さんで十分認識して頂きたいと考えます。

(参加者)

鮎は、待崎川や天津小湊町の二間川には戻ってきた。加茂川はまだだが・・・。
ハタという魚が、河口に生息していたが今は、絶滅してしまった。

(参加者)

現在の状態で放置した場合、あと何年くらいでどうなるのか？

(宇多氏)

前原海岸は、そのまま飛砂はひどくなると思います。海岸中央部の護岸は3年以内にまた被災する可能性もあります。よって、このまま放置した場合も含めて広く議論すればよいと考えます。

(参加者)

行政は、どのくらいの期間で進めていこうと考えているのか？即急な対処は行うのか？

(宇多氏)

そのところは、もう少し話をつめて、次回の会議で議論すればよいと考えます。
ただ、東条海岸の中央部は、他の場所よりも波あたりが強い状況にあり、来年のできるだけ早い段階で、東条海岸の中央部に対しての手当ては行いたいと考えています。
すべてコンセンサスのもとで合意が得られるものでなくてはならないので、今後、陸側も含んで、50年先という長期を見据えた鴨川沿岸の発展を目的に会議を進めるべきだと思います。

(清野氏)

ひとつ構造物を造ってしまうと、それは30年後、50年後もそのままなので、案を出す場合は、鴨川の人々がよく思案して出すのがよいと思います。
ただ、出した案が無理な場合もあるので、その辺は今後議論の中で調整すればよいと思います。今後の会議は、地元の有志で運営を行いたい人がいれば運営を行えばよいと思うし、次回の会議以降、この海岸づくり会議をどうやって運営していこうか皆さんで決めていただきたいと思います。

(宇多氏)

案は、たくさん出してほしい。小さいアイデアも全て出してほしい。専門家はそれを全てサポートしていきたいと考えています。

7. 閉会（鴨川市）

今回、鴨川沿岸海づくり会議を開くにあたって試行錯誤の連続でありました。今回、多数の人々に参加をして頂き、有意義に会議を進められたことに感謝致します。今後の会議においても、鴨川の海岸のため、皆さんの意見を多数出して頂き、海岸づくりを行っていかうと考えております。

